

# 三條別院のご案内

## 三條別院に想う

▲本年一月一日に発生した能登半島地震により被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げます。元駐在の西山氏が住職を勤める西勝寺（石川県珠洲市）の本堂が倒壊して煙を巻き上げる様子はテレビで何度も放送されました。今回は現状を執筆していただけることになりました。



真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp

みなさま、ごめんください。二〇一九年四月まで三條教区駐在教導を勤めさせていただいておりました、能登教区（石川県珠洲市）西勝寺住職の西山郷光と申します。「三條別院に想う」の紙面をお借りし、能登半島地震に被災した私たちの近況をご報告させていただきます。

私たちの住む珠洲市では、一月一日一六時過ぎに震度五の地震があり、ほどなく震度六強の地震がありました。その後も震度四〜五の余震が何度も続きました。

最初の地震のあった一六時六分、私は子どもたちと二階にいました。二階は昨年五月の震度六で一階の柱が外れたため鉄柱数本で補強している少し不安定な状態でした。子どもたちはすぐに机の下に避難し、私は余震に備えるよう言い残し、一階の仮本堂に向かいました。一二歳の長男は二階に残り、六歳の次男は私に付いてきました。仮本堂では新年挨拶に来られたご門徒と祖母、母の三名がいました。ご本尊は立花と共に倒れてしまっていて、一〇月にご修復が終わったところでしたが、また直さねばならない状態になっていました。しかし、気落ちする間もなく震度六強の本震が訪れました。

経験したことの無い激しい揺れの中、私は、母が次男を抱き抱えて守ってくれている姿を目の端に捉えながら、長男が一人で残っている二階へ走りました。倒壊の恐れがある二階から早

く長男を助けたかったのですが、床や壁全てがうねるように揺れていて階段に足をかけたものの登ることができず、轟音で声も届かず、柱にすがって二階の廊下の棚や部屋の中の物が倒れていく様を凝視していました。瞬く間に床、柱、壁が壊れて離れていき、隙間から外の明かりが差し込み、そこから埃が噴き出してきました。この埃は本堂倒壊の埃だったのだと後で知りました。また本堂倒壊の様子はテレビで何度となく放送されていたそうです。





本震は二分間も揺れ続けました。この長い時間のほとんどを二階に独りでいる長男の無事を続けるように祈って過ごしました。揺れが一旦止み、ようやく大声で長男を呼ぶと二階から「大丈夫！」と気丈な声が聞こえました。長男が避難した机は倒れてきたタンスで曲がっていましたが、なんとか長男を助けてくれていました。他にはリビングにいた妹家族四名も机の下に避難し無事でした。以上、当時寺にいた人間は様々な幸運も重なって、全員怪我無く無事でした。

一階は殆どの扉が壊れるか外れるかしており、冷たい外の風に乗って市役所からの津波警報が聞こえてきました。津波は寺までは届きませんでしたでしたが夜の寒さをしのげないため避難所になった山の上の小学校に向かいました。境内では、倒壊した鐘楼堂と本堂が目に入りました。なお、本堂は昨年の地震ですでに大規模半壊だったので中のものは一時的に庫裡に運び出しており、仏具の被害も最小限で済みました。



避難所の小学校には一月三日朝までお世話になりました。金沢に出る道は寸断されているという情報でしたので一週間程度は覚悟していたのですが、三日の朝に金沢に出られるルートが市役所を通じて告知されました。また二日夜の校内放送で「特にトイレ周りの衛生状況が悪くなり感染症の症状が現れた方々がおられるため、手指の消毒を徹底して欲しい」という放送があり、子どもたちや九八歳の祖母の体調が不安になっていったことや、車を車庫から出すことができたこと、避難所の負担を少しでも減らすための人減らしの必要性などの理由で、小松に残っていた住まいに避難することにしました。



一月三日十一時、最低限の荷物を積んで寺を出発しました。道中は至る所に隆起、陥没、裂け目、土砂崩れなどがありました。道の断裂のたびに車を止め、周囲の石を積んで段差を軽減したり迂回したりしながらの運転です。比較的安全なところでは大渋滞。暗くなった後でも底が見えないほどの裂け目を越えねばならない道もありました。



普段なら一時間程度で到着する穴水市内に着いた頃には夜二一時。一三時頃に道の駅で車中泊して翌朝五時に出発。一月四日一〇時半、小松に到着しました。車中泊の時間を含めて二三時間以上かかりました。

十二月三二日の除夜の鐘以降ほとんど寝ていない状態での運転でしたが、疲れを感じることもなく最後まで運転できました。

火事場の馬鹿力だったのだらうと思います。また、こんな大変な道中にも拘らず、子どもたちは旅行を楽しむように笑顔を見せて過ごしてくれて、本当に助けられました。

二月十日現在の私たちは、祖母は東京の叔父宅に避難し、小松にいる私と妻と母の三名は生活の合間にお寺に片づけに戻る往復生活をしています。電気は一月二〇日に復旧しましたが、水の復旧は春以降になりそうです。

連絡のついたご門徒さんは多くありません。今も珠洲市に残っている方もありますが、多くの家が倒壊し、市外に避難された方が多いです。地震活動は当面続くと言われていきますから、今後戻ってくるご門徒さんがどれくらいおられるかはまだわかりません。月末に、転送されて届くことを期待して、手紙を出すことにしました。

一月中旬にお葬式を一件勤めました。地元の入院先で亡くなった方で、金沢の葬儀場で勤めました。前日に寺に装束を取りに行けて幸いでした。二月頭にはお墓参りと月参りを勤めました。法務は激減しましたが少しだけ続けています。

今後は、庫裡で比較的無事だった部分に仮本堂を設けて寺で法務を行える体制を整えたいと思います。また法務以外の仕事も見つけなければなりません。

いやはや、人生というものは色々なことが起こりますね。

ですが、阿弥陀さまは私たちを必ず救うという誓いを成就され、今も私たちを照らし続けてくださっています。ですから、私たちはこの有難い阿弥陀さまの誓願を素直に信じて生きていつて良いのだと思っています。

この現実が今の私の普通です。辛いこと、苦しいこと、色々起こりますが、生きよという励ましもまた阿弥陀さまから頂戴していますから大丈夫、安心です。ちゃんと、死ぬまで生きていきます。

最後に、私たちをご心配くださったこと、このようなご報告の場をいただきましたことを心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

南無阿弥陀仏

西山 郷光 氏 (能登教区西勝寺)

○次回の「三条別院に想う」は、

楠 無量 氏 (第十八組西源寺)

よりご執筆いただきます

▲今回は、新潟教区災害支援実行委員の楠さんより執筆していただきます。

○能登半島地震救援金について

三条別院本堂、同朋会館に救援金箱を設置しております。ご協力くださいますようお願い申し上げます。

## 春彼岸会のご案内

春彼岸会を左記の通り厳修いたします。有縁の方々をお誘いあわせの上是非ご参詣下さい。

◇期 日 三月十七日(日)～十九日(火)

◇日程および法話講師

十七日(日) 午後一時三十分より速夜法要

兼 全戦争犠牲者追弔法会

法話 今泉 温資 氏 (往生人舎主宰)

「戦争犠牲者は永眠してはいない」

―武器を捨て能登半島地震の被害者の

方々に救いの手を！―



【17日18日講師の今泉氏】

十八日(月) 午前十時より永代経総経

法話 今泉 温資 氏

「水滴石を穿つ―先達の願いに生きん―」

お斎 (正午)

午後二時三十分より速夜法要

法話 ひき続き 今泉 温資 氏

十九日(火) 午前十時より日中法要

法話 平出 文勇 氏 (第六組願生寺住職)

「お下がりの信心―本の出版を通じて―」



▲本年より全戦争犠牲者追弔法会が三条別院の事業となりました。十七日の速夜法要と兼修いたします。内陣出仕・外陣出仕にてご参勤いただける方は、法要時刻の三十分前までに本堂裏にお集まりください。(袋東 直綴・五条袈裟・白服・中啓・半装束念珠)。座次は着帖順です。

▲十八日正午に、お斎を眞加金二千円にて、ご用意いたします。ご希望の方は三月十一日(月)までにご連絡下さい。

い。お斎は三条スバイス研究所と協力して開発した春の息吹を感じる精進カレー「釈迦礼弁当」です!

▲春彼岸に先立ち、三月十一日(月)午後二時四十六分(東日本大震災発生時刻)に勿忘(わすれな)の鐘を撞きます。

▲十八日・十九日は三条別院建立のきっかけとなった願生寺事件を中心にお話しいたします。『新・願生寺正鑑』先達の願いに生きん』も当日販売いたします。



【平出氏と書籍】



【ふきのとうカレーやおかずも美しい】

### 【列座法話】 彼岸

少し前に修正会が勤まったと思つたら、もう春彼岸の季節である。本年の三条別院の春彼岸は三月十七日〜十九日までお勤まりになるので皆さん是非ご参詣ください。

さて、彼岸と言え、蓮如上人が書かれた『帖外御文』の中に『彼岸會御文』というものがある。

彼岸會と申す事は、春秋の両時において、天正時正と申して、昼夜の長短なくして、暑からず寒からず、其日いで、正等にして直に西に没し、人民の往還たやすく、佛法修行のよき節なるによりて、其かみ佛在世より末代の今にいたりて、これを行ふ也。

昔から「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉があるが、この言葉には「暑くなく、寒くなく、仏法修行の良い季節だから聴聞しましょう」という意味が込められているのではないだろうか。この御文の中でも「夏冬は勤苦にして、信心修行もをろそかになりやすき」とあるように、夏の暑さ、冬の寒さ、気温に限らず様々な事情でどうしても日々の間法生活が疎かになりがちであるが、気候の安定した彼岸の時期をご縁として、今一度仏法聴聞に励みましょう。ちなみにこの『彼岸會御文』、典拠や解説がないかと思ひ、別院の書庫でいろいろ調べてみたのだが、私はなにも見つけられなかった(泣)『彼岸會御文』について書かれた本、資料を知つてる方、是非教えてください……

(小原)

### 別院子ども奉仕団・おてらであそぼう はなまつり

三条別院ではお釈迦様の誕生日(四月八日花まつり)、親鸞聖人の誕生日(四月一日)にあわせて、子ども奉仕団・お誕生法要を毎年開催させて頂いておられます。初めて会う友達と共に、お寺に触れていただくことで、「いのちの大切さ・本当の私」について考えられるような、楽しい奉仕団を目指しております。本年度のスローガンも「おてらであそぼう はなまつり」です。例年人気の行事ですので、お早めにお申し込みください。

◆開催日 四月二日(火)〜三日(水)

◆対象 現在小学一年生〜六年生の方

(小学新一年生〜中学新一年生)

◆会場 三条別院 ◆締切 三月八日(金)必着。

◆定員 四十名(先着) ◆参加費 五千円(当日)

### 公開講座の講師決定

二〇二四年の三条別院公開講座の講師は、二〇二二年、二〇二三年に続き、中島岳志先生(東京工業大学教授)です。一年目は「利他と他力」、二年目は「日本政治はどこに向か



つているのか」、三年目の今年、現代における宗教の役割について、お話しいただきます。前二回の先生の講義は、三条別院YouTubeチャンネルの「ライブ」からご覧いただけます。

◆期日 五月十八日(土) 午後二時〜四時半

## 【荘厳・儀式プログラム】 『往生礼讃』 について

三条別院では、お彼岸に入る前日に内陣の立花をし、中尊前と祖師前に打敷と杉盛華束を供えています。お勤めは初日中法要に永代経総経を行って、他のため仏説阿弥陀経と正信偈をお勤めし、他の晨朝法要、日中法要、逮夜法要では正信偈をお勤めしています。

ご本山では春秋彼岸会の初中結の日中法要に往生禮讃偈をお勤めしており、他のいくつかの別院や一般寺院でも同様にお勤めをされているようです。御存じのように第七代存如上人時代までは一日を六つの時間に分け四時間ごとにお勤めをする六時禮讃が修されていましたが、第八代蓮如上人の時代に六時禮讃をやめ現在のかたちの朝と夕に正信偈と三帖和讃がお勤めされるようになりしました。その後、長い間、ご本山でお勤めされることはなかったようですが、百年ほど前に記された『聲明考』によると第二十一代嚴如上人の時代に再び往生禮讃偈がお勤めされるようになったと記してあります。

現在、往生禮讃偈は東本願寺出版の真宗大谷派声明集ではなく、法蔵館の『大谷派聲明集』下などにしか載っていません。そのようなこともあり一部でご本山などではしか勤めてはいけない特別なものと誤解されているところもあるようですが、一般寺院でお勤めしても問題はないそうです。一年のうち春秋彼岸会中の六回だけの特別なお勤めですので、往生禮讃偈をご自坊でお勤めするというのもいかがでしょうか。

(松浦)

## 宗祖 御命日のつどい

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に「御命日のつどい」を本堂にて、日中法要と法話、その後座談会の場を開いております。どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げております。

なお、前日(二十七日)はお逮夜法要を、午後一時三十分よりお勤めしております。

◆日時 三月二十八日(木) 午前十時より

◆会場 三条別院 本堂

◆お勤め(御命日 日中法要)

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回 向 願以此功德

◎今月の法話講師

佐々木 憲雄氏(第十五組光善寺)

▲『御文』一帖目をテーマにしております。

▲十時半から十一時半まで法話。その後座談会を設けております。講師を囲んで語り合います。

◆今後の講師一覧

四月 戸次 輝氏(第十組超願寺)

五月 北條 祐史氏(第二十三組長願寺)

六月 塚本 智秀氏(第十八組等運寺)

七月 大久保州氏(佐渡組廣永寺)

八月 橘 出 氏(第十八組久唱寺)

九月 倉井 光弥氏(中越十一組養泉寺)

十月 八田 裕治・摩矢子氏(第十七組淨福寺)

十一月 朝倉 奏氏(第二十組金養寺)

十二月 佐々木 祐玄氏(第十五組光善寺)

## 定例法話会のご案内

毎月十三日の闡如上人のご命日にあわせて定例法話会を開催しております。

◆二月～四月の講師

福田 学氏(第十五組善性寺)

◆講題 「念仏者のしるし」



【お取り越し報恩講での福田氏】

◆日時 二月十三日(火) (済)

三月十三日(水)

四月十三日(土)

いずれも午後一時三十分～午後二時三十分

その後二十分ほど座談会

◆会場 三条別院旧御堂

◆新荊ウイルス感染症からロシア・ウクライナ戦争、能登半島を震源地とする地震と、様々な災害・事件が続き、落ち着かない日々が続いています。こんな時、あらためて腰を据えて仏教を聞いていきませんか。善性寺ご住職の福田学氏に「念仏者のしるし」という講題で全三回でお話いただきます。

◆今後の講師

五月～七月 富樫 大樹氏(第十七組妙音寺)

◆テーマは『歎異抄』の本願と宿業についてです。



有志の会庭講からのお知らせ

二月十三日(火)に庭講の年間活動会議がありました。その中で、雪により幼稚園の遊具付近にある老朽化した樹木の太い枝が折れた件が話し合われ、危険防止のため早急に樹木点検を業者に依頼すべきというご意見をいただきました。これから春の予定としては、三月に冬囲い撤去・剪定作業・藤棚作製を、四月には清掃作業・池の水抜き清掃、五月に除草作業・剪定作業・消毒殺虫剤散布を行う予定となっています。

フードバンクを継続中

多くの方々にご協力いただき御礼申し上げます。次回引き取り予定日は三月二十五日(月)です。

その他の講座案内

○別院声明教室

夜の部(午後六時～八時) 昼の部(午後三時～五時)

夜の部講師 橘 宗真氏(第二十組顕了寺)

昼の部講師 別院列座

開催日 二月十六日(金)(済)

三月十五日(金)・四月十六日(火)

五月十五日(水)・六月十四日(水)(全五回)

○別院書道教室(東友会)

【毎月第一、第四水曜日 午後六時三十分～八時】

講師 木原 光威氏(新潟県書道協会理事)

月謝 三,三三〇円(テキスト代含む)



随時募集中

○有志の会庭講「毎月十三日」

「一緒に別院のお庭を整備していきませんか? 毎月十三日十時から、午後は定例法話を聴聞します。」

○有志の会花講

花講は別院の立花を、有志の会は別院行事に併せた奉仕活動や季節ごとの懇親会を行っております。

○別院奉仕研修について

【奉仕研修修真加金】

一人あたり半日(午前または午後) 五百円、一日千円  
一泊二日は上記の修真加金に順じて半日五百円で計算する。

【その他実費でいただくもの】

- ①講師謝礼。なお、列座によるお内仏のお給仕・法話は修真加金に含まれる。
- ②シーツ等クリーニング代千円
- ③食事代(ご要領書等)ございましたらご相談承ります。

○団体参拝及び諸殿拝観について

列座が諸殿拝観などを行います。日程等お気軽にご相談ください。

【雑感】諸規則について

地震によって破損した箇所の修復や老朽化した部分の営繕や重たい雪で折れた木の伐採等を長期整備計画の作成と並行してすすめていかなければなりません。しかし経年劣化するものは建物だけではありません。別院の諸規則(諸会議の規則含め)も時代にあわせて直さないといけないところが少しずつできています。月二回の輪番を含めた職員ミーティングを開きながら少しずつ確認しているところですので、年度初めの諸会議に諮っていきたくと考えています。(斎木)

◆◆編集後記◆◆

この「三条別院のご案内」、毎月発行しているけれども、いつごろから始まったんだろうと思いを調べてみました。どうやら二〇〇六年頃、『三条別院だより』を単独発行しようとする当時の別院教化審議会の方々が約三年の歳月をかけた「尽力されたわけですが、しかし中々発行までに辿り着けず、「このまま放っておくわけにはいかない」という委員各位の願いによって、二〇〇九年に『三条教区通信』の一部である「三条別院のご案内」を有効活用していったことが始まりのようです。

そうしておよそ十五年に渡り発行が続き、本年二〇二四年、別院だよりは一月号より、教区通信から独立し、A三折り一部となりました。紙幅に余裕ができたため、職員で分担して「儀式荘厳コラム」「列座法話」「雑感」のコーナーを追加して執筆しております。これまで職員の人柄がわかるようなコーナーは編集後記しかありませんでしたが、より一層、その人となりが見えるようになったのではないかと思います。

過去の「別院に想う」などを読んでみると、その人のお顔が浮かび、熱意がそのまま伝わってくるものが大変多いです。まさに、別院を「このまま放っておくわけにはいかない」という当初の願いのまま、別院に対しての想いを綴ってくれています。新しくできたコーナーも、その願いに育てられながら、読み応えのあるトピックに常に成長していけたらと思っております。お気軽に感想やご意見などいただけるとありがたいです。

(廣河)